ステップ1 ←-------→　ステップ2 ←-----→　ステップ3 ←——→

誰もが住みたくなる町づくりを目指して！

①生活しやすい環境づくり

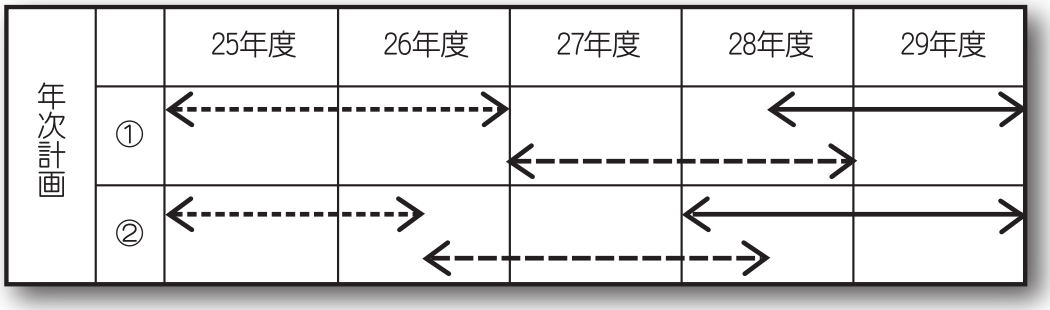
年次計画		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	←-------→	←-------→		←——→	
	②	←-------→		←-------→	←——→	
	③	←-------→	←-------→	←-------→	←-------→	←-------→

①商店が減少しており交通機関も少なく不便なため高齢者の買い物が困難である。
②町中にゴミのポイ捨てが見られ不法投棄も多い。また家庭から出るゴミの分別がなされていない。
③美しく自然豊かであるが山林が荒れており手入れがなされていない。

課題

５年後のまちの姿【目標】	事業・取り組み		
	ステップ１	ステップ２	ステップ３
①仲良くご近所同士、誘い合っての買い物ができるまち	各団体の協力を得て、各商店に、買い物マップなどの作成についての理解を得る。	地区内の商店の買い物マップを作成し、各世帯へ配布・周知をする。	町内での買い物の推進と、人との絆づくりなどを学ぶことで、見守りにもつなげる。
②探しても見つからないゴミ。綺麗で清潔なゴミステーションがあるまち	市の環境部などの協力を得て、各地区で講習会を実施する。	看板を設置し、ゴミ出しについて住民への周知を行う。	住民の理解を図り、クリーンボランティアの育成に努める。
③自然が美しいまちであり、山林が整った豊かな自然が多いまち	わが町の自然のよかとこ探しなど、環境学習を行う。	土地提供者を募り、そこでの無農薬野菜や花づくりをすすめる。生ゴミを活かした堆肥づくりや史談会の協力を得た、ウォークラリーなどの開催を検討する。	

②人と人とのネットワークづくり

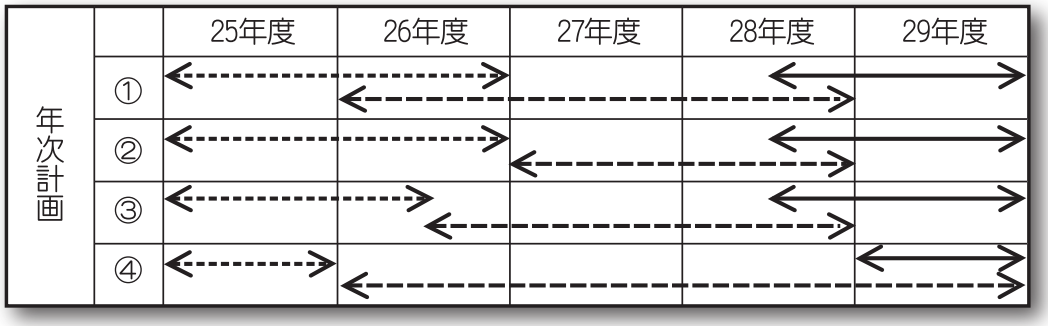


①挨拶をしても返事が返ってこないなど、大人同士の関わり、近所付き合いが希薄化してきている。
②かぎっ子や一人暮らし、ひきこもりがちな高齢者が多くなっている。

課題

5年後のまちの姿【目標】	事業・取り組み		
	ステップ1	ステップ2	ステップ3
①大人同士または、大人と子どもたちでの会話が明るく響いてくるまち	各団体の協力を得て、人の絆について講演会などの学びの場の企画・実施をする。	学校・家庭などにおいて、あいさつの大切さなどの学びの場を推進する。	人の繋がりにおける防犯・防災並びに絆づくりに努める。
②気軽に相談ができ、ご近所または地域での見守り活動が強化されているまち	民生委員児童委員、主任児童委員、地区長と連携し実態把握を行う。	民児協を始めとする各種相談員や相談所のＰＲ及び広報啓発をする。	講演会などの開催により、見守りネットワークの推進及び強化を図る。

③みんなが集まる場所づくり

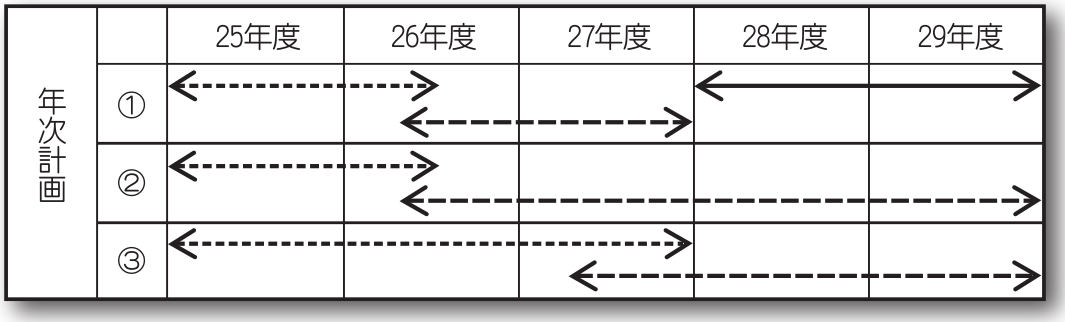


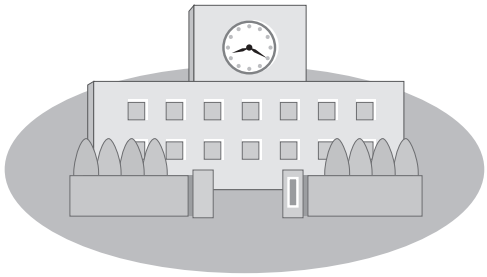
①高齢者が多く地域活動や伝統行事を行うことが困難になっている。
②町内行事の参加者が少なく町全体の活気がなくなってきている。
③子どもが安全に遊べる場所(公園など)が少ない。
④地域交流の場や世代間交流の場がない。

課題

5年後のまちの姿【目標】	事業・取り組み		
	ステップ1	ステップ2	ステップ3
①各地区の行事だけでなく、隣接する地区と共同で行事を行い、高齢者の顔と顔で笑顔に満ちあふれるまち	自治会の協力を得て、各地区で開催されている行事の把握を行う。	各地区での会合の折、隣接する地区の住民の協力・理解を得る。	地区同士の協力・理解による行事及びイベントの開催及び新規開発に努める。
②子どもから高齢者まで、参加できる活気あるイベントがあるまち	各団体の協力を得て、「えむかえイベント実行委員会」などの基盤づくりを行う。	「寄ってみんねえむかえ」交流人口を増やす。	各団体の協力を得て、子どもから高齢者まで参加できるイベントを企画する。
③各地区にある公園を拠点に、子どもたちが元気に外を走り回り活気があるまち	地区長、老人会、育成会などの協力を得て、各公園の実態把握を行う。	公園マップの作成及び世帯配布を行い、地区内の公園の周知を行う。	各団体の協力を得て、親子での公園遊び、子ども達の居場所づくりを推進する。
④初めて会う人とも気軽に挨拶ができ、世代を超えて人の笑顔があふれるまち	江迎地区以外での世代間交流事業に係る情報収集などを行う。	各団体の協力を得て、江迎地区にあった交流事業を企画・実施する。	実施後の振り返りを行い、毎年交流事業が継続出来るよう努める。

④安全で安心な町づくり





①危険な通学路があり、子どもの登下校が心配である。
②災害時の避難場所が明確になっておらず、また不適当な場所もある。
③町全体の危険場所を町民が理解していない。

課題

5年後のまちの姿【目標】	事業・取り組み		
	ステップ1	ステップ2	ステップ3
①危険箇所を把握し、安心して登下校できるまち	区長、民生委員児童委員、警察、育成会の協力を得て、モデル地区を選定し、通学路の実態把握を行う。	既存の通学路マップの見直しを行う。（危険箇所記入）	モデル地区の検証を行い、全地区の通学路マップの見直し及び世帯配布にて、地域住民への周知・見守り強化の推進に努める。
②災害時などに、速やかに避難できる自信があるまち	住民に災害時における対策強化の周知を行う。	消防局などの各関係機関の協力を得て、講習会などを行うとともに、防災訓練などの企画・実施を行い日頃から災害などの緊急時の対策を推進する。	
③地区内で危険箇所の把握を行い、誰もが安心して外出できるまち	各団体の協力を得て、危険箇所の実態を把握する。	広報誌などを活用し危険箇所の周知を行い、子ども、高齢者の外出時の安全面の強化に努める。	